

# 拡張 DM エディタ バージョン 8.0.18 更新記録

2015/10/06  
有限会社ジオ・コーチ・システムズ  
<http://www.geocoach.co.jp/>

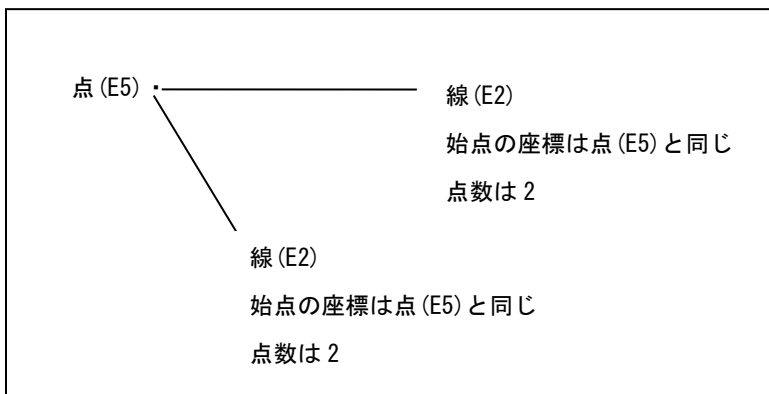
## 1. 点と線を方向へ変換

メニュー「DM から DM」に、新メニュー「点と線を方向へ変換」を追加しました。

本来は方向(E6)となるべき要素を点(E5)と線(E2)で作っておき、方向(E6)に変換するための機能です。  
次のような地物を想定しています。

4132 電話柱

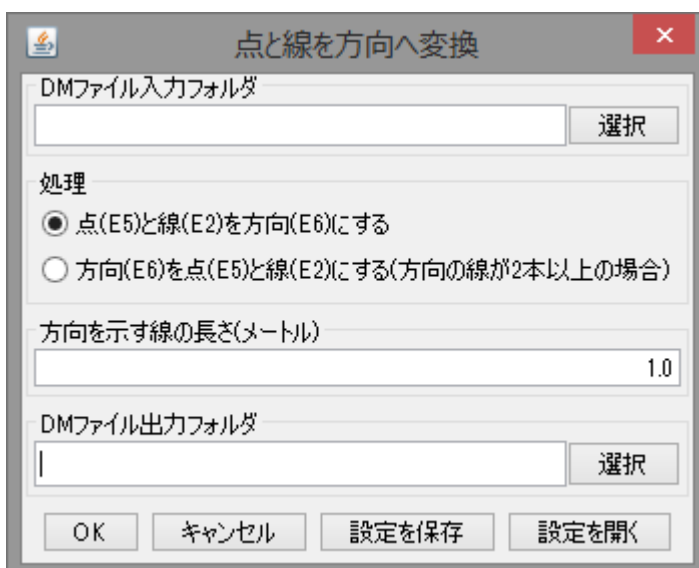
4142 電力柱



点(E5)に注目し、次の条件で線(E2)を探します

- ✓線(E2)の分類コードは点(E5)と同じ
- ✓線(E2)の頂点数は 2
- ✓線(E2)の始点が点(E5)と同じ座標

条件が合えば、点(E5)と同じ座標に方向(E6)を作成し、方向をセットします。元の線(E2)が複数あれば、複数の方向をセットします。元の点(E5)と線(E2)は削除します。



DM ファイル入力フォルダ

指定されたフォルダ内の.dm あるいは.kih を参照します。

### 点(E5)と線(E2)を方向(E6)にする

上記の変換処理を行います。

### 方向(E6)を点(E5)と線(E2)にする(方向の線が 2 本以上の場合)

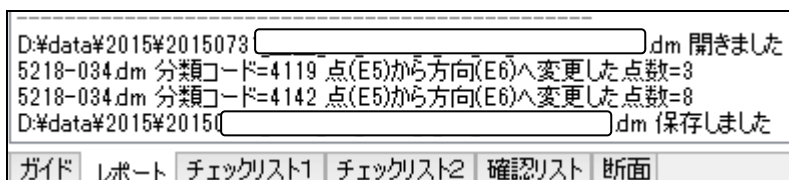
逆の処理で、方向(E6)を点(E5)と線(E2)に変換します。但し、方向(E6)に複数の方向がある場合が対象で、流水方向など方向が一つの場合は、分解の対象外です。

### 方向を示す線の長さ(メートル)

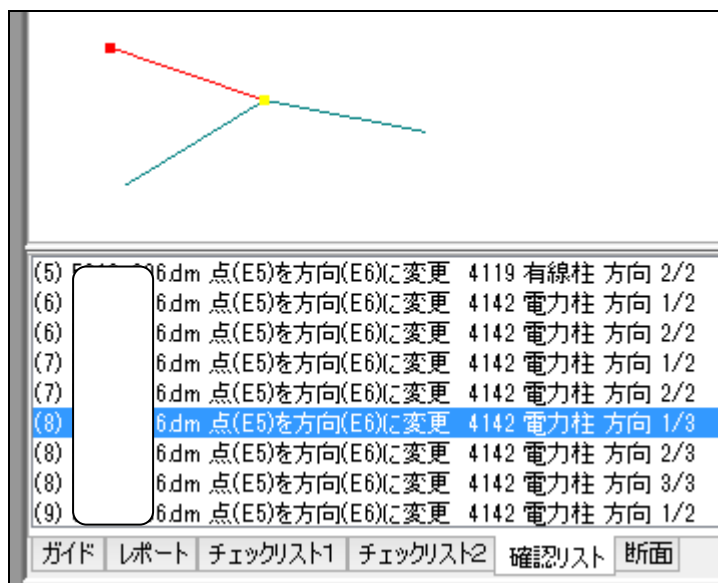
点(E5)と線(E2)を方向(E6)にする際に、作成する方向(E6)の点と方向を示す座標との長さを指定します。この長さで計算した座標を DM ファイルに記録します。

### DM ファイル出力フォルダ

変換した DM ファイルを保存します。変換がなくても DM ファイルを保存します。



レポートパネルには変換した点の数を表示します (上図)



確認リストには各方向をリストアップします (上図)。

## 2. 方向(E6)の表示

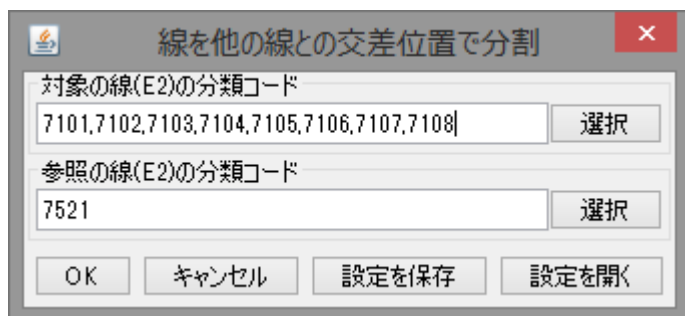
方向(E6)を選択した際に、方向を示す線を表示していますが、方向を示す線が複数あっても、1本しか表示しない問題を修正しました。

### 3. 線を他の線との交差位置で分割する

新メニュー[一括処理]-[線を他の線との交差位置で分割する]を追加しました。

線(E2)と面(E1)について、他の線(E2)面(E1)と交差する位置で、分割します。

等高線をブレイクラインと交差する位置で分割するために、この機能を作成しました。



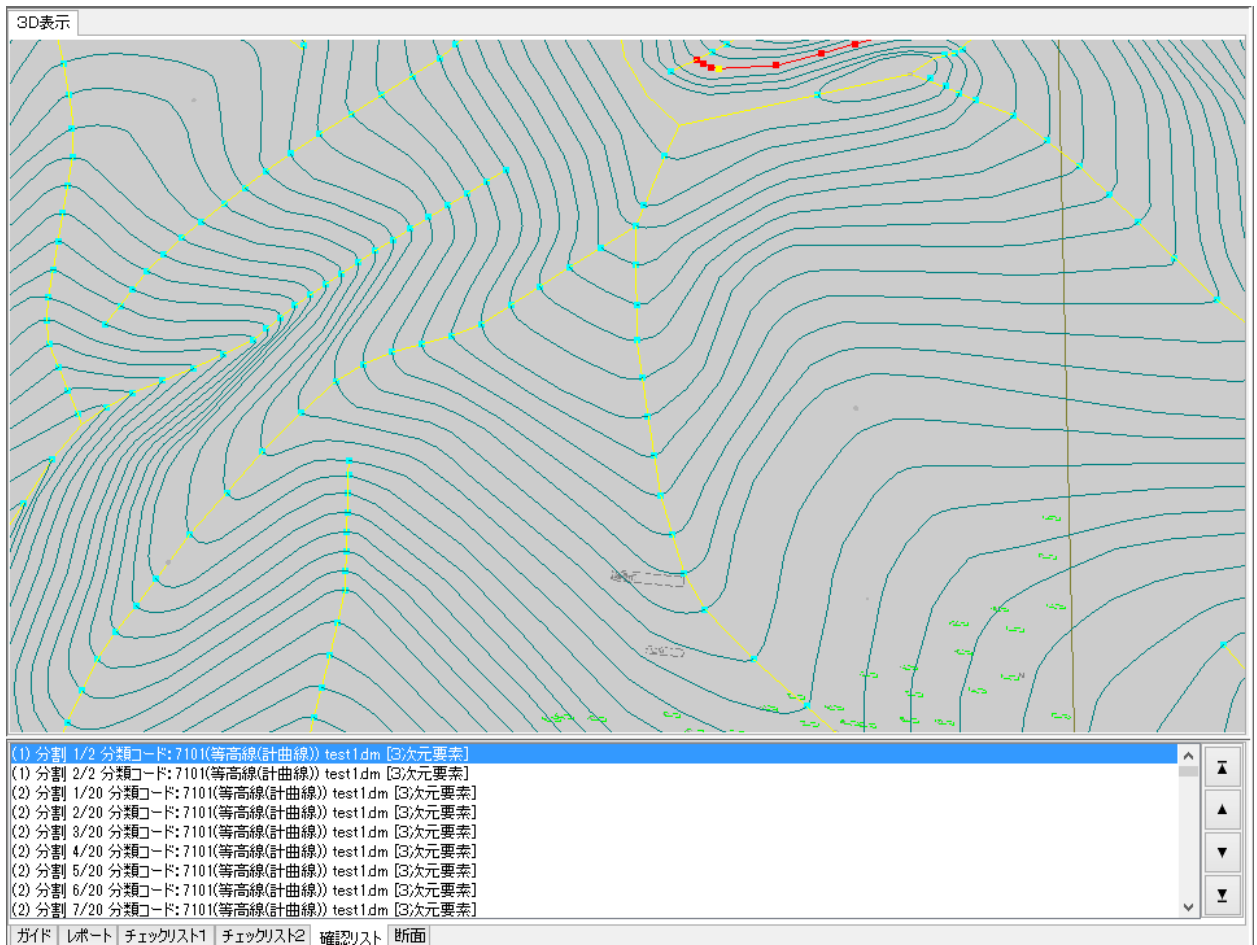
#### 対象の線(E2)の分類コード

対象となる線(E2)と面(E1)の分類コードを指定します。4桁の分類コードをカンマで区切って指定します。「選択」ボタンで選択した分類コードがここにセットされます。

#### 参照の線(E2)の分類コード

参照となる線(E2)と面(E1)の分類コードを指定します

対象の線と面について、参照の線と面と交差する場合、交差位置で分割します。交差はXY平面で計算します。対象が面(E1)の場合、分割したポリラインは線(E2)になります。



確認リストには、分割した線をリストアップします。3D表示パネルには、確認リストの点が分割位置になるように表示しています。

#### 4. 要素リストアップ

メニュー[ツール]-[要素リストアップ]に「始点と終点と同じ座標」を追加しました。



### 始点と終点が同じ座標

面(E1)と線(E2)について始点と終点が同じ座標でない場合、リストアップの対象外になります。

## 5. ダイアログでの「設定を保存」「設定を開く」



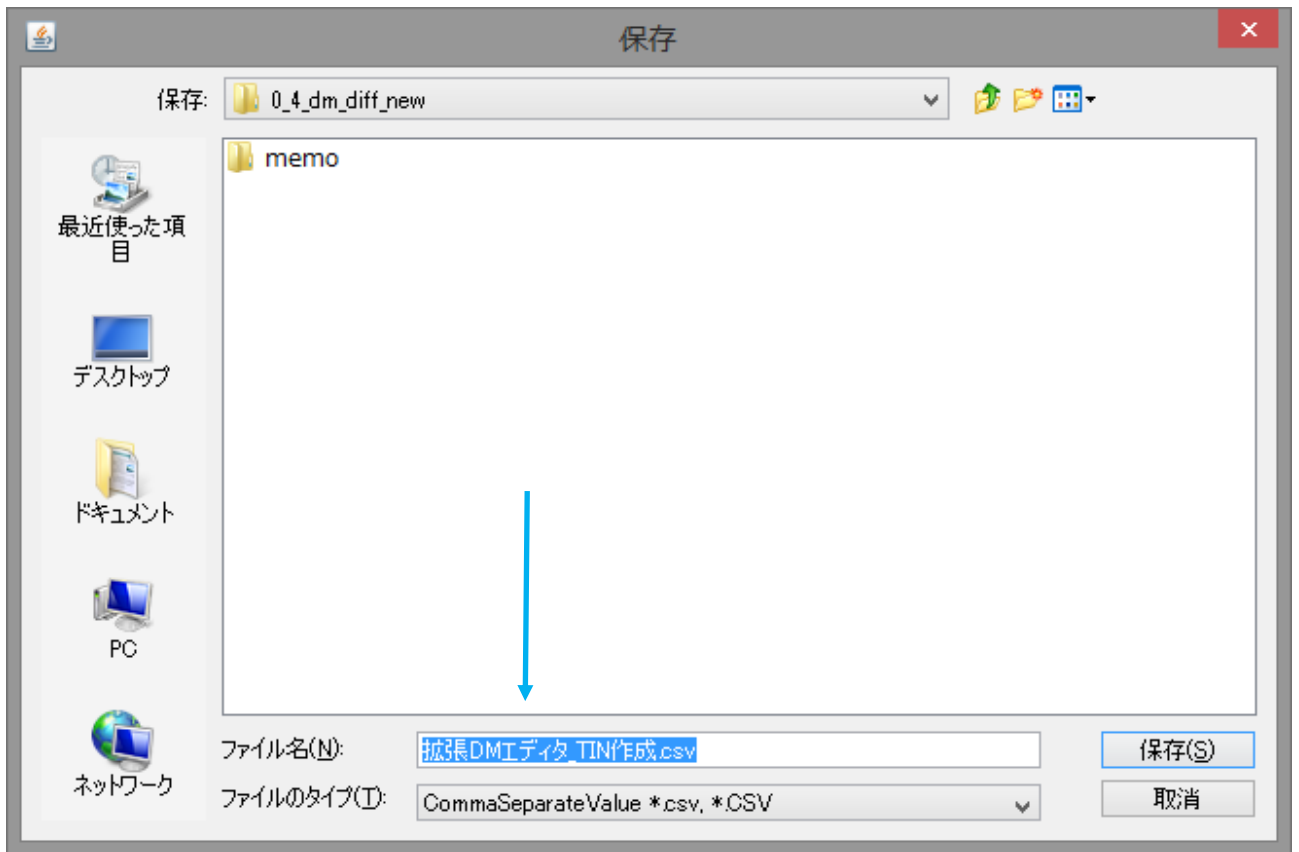
ダイアログのボタン「設定を保存」「設定を開く」で、デフォルトのファイル名を

メニュー名 + “.csv”

と、していましたが、

アプリケーション名 + “\_” + メニュー名 + “.csv”

としました。



一括処理で設定を参照するために保存する場合、アプリケーション名とアンダーバーを除いて、メニュー名のみにして保存してください。